

愛知支部―第3回わがまち見学会『岐阜』 書を捨てず、町へ出よう

今回のわがまち見学会で、ぶらぶらとまちを歩くことが大切だと感じました。資料や地図を見ることは大空から見渡す「鳥の目」を養うことになり、ぶらぶらと歩くことはしっかりと地面を見つめる「虫の目」を養うことになります。その両方があるこそ知識を深いものにしてくれると思います。ということで「書を捨てず、町へ出よう」です。

JR 岐阜駅前には、周辺整備がとても進んでいて、ダイナミックな空中歩廊・中央広場・金の信長像・タワービルなど想像以上に都会的な印象で、とても驚きました。三重県出身の私は友人と「いいよね、こういう雰囲気のところは三重県にないよね〜。」と話していました。第4回高橋尚子杯「ぎふ清流ハーフマラソン」の開催日でもあり当日はたくさんの人で賑わっていました。

岐阜大仏のある正法寺は、外の柱梁の塗り替えも行われていないようで少し柱の傾きもあり、周囲の町並みとは異質な雰囲気でした。中の岐阜大仏はお寺の外観とギャップがあり、とても立派なものでした。岐阜大仏は、木材で骨格を組み、竹を編んで仏像の形を形成して、その上に粘土をぬり、法華経等の経典が書かれた美濃和紙を張り付けて漆を塗り金箔を張っているそうです。相次ぐ大地震や大飢饉に心を痛め、これらの災害で亡くなった人々の菩提のためにつくられたとのこと。仏像のための経本は思うように集らず、各地を托鉢してひたすら集めた当時の住職が、読み、一枚一枚貼られています。左右には五百羅漢の木彫や壁面にも仏教絵巻の木彫がありとても見ごたえがありました。またお寺の中には中部大学の学生さんが作成した大きな構造模型が置いてあり、とても興味深く見させていただきました。

ぶらぶら歩くうちに発見があります。道沿いに日中友好庭園の中国式杭州門がありました。岐阜市と中華人民共和国の杭州市との友好都市提携 10 周年を記念して作られた庭園で当時の岐阜市長と杭州市長の「日中不再戦」と「中日両人民世代代友好下去」の碑文が交換され建立されています。ちなみに、日本の都道府県名で中国に名前の由来があるのは『岐阜』だけだそうです。諸説あるようですが、岐阜の『岐』は中国の「岐山」（きざん）に由来し、岐阜の『阜』は中国の「曲阜」（きょくふ）に由来するようです。

その後岐阜公園を散策し、金華山ロープウェイで岐阜城へ行きました。天守閣からの眺望は絶景で、岐阜のまちなみや長良川が一望できて乗鞍岳も見えました。金華山とその北側に広がる山々の地形がとてもユニークで、いつまで見ても飽きませんでした。少し下の展望台には市民ランナーの川内優輝さんが来ていました。

川原町への入口に鶴飼乗場の背の高い建物があり、その場所のアイキャッチになりとても良い雰囲気の建物でした。格子の連なる川原町の古い建物は思ったより活用されていないという印象でしたが、古い建物を活用した高級レストランや、ナガラガワフレーバーという古い建物を活用したベーカリー・カフェ・インテリアショップ・ギャラリー・体験陶

芸教室・バティスリーの複合施設があり、これからもっと地域の人が集まる場所になりそうな町でした。養蜂の盛んなんこともあってハチミツをかけて食べるバームクーヘンをとっても美味しくいただきました。

そのほかにも名和昆虫博物館や長良川沿いを散策し、長良川うかいミュージアムに行くことが出来て、岐阜市を満喫することができました。とてもよく歩き、友人の万歩計は1万6600歩でした。ぶらぶらと歩くことが楽しいまちづくりが良いなと思いました。

今回のわがまち見学会は、岐阜支部の森田さんと愛知支部の壬生さんが企画してくれました。支部の垣根をこえてのまちあるき企画はとても楽しいものでした。

(愛知支部・黒野晶大)



岐阜城からの景色



長良川うかいのりば